協定校からの留学生
コメント 2022

愛知県立芸術大学

洪慈萱さん

所属大学　国立台南芸術大学（台湾）
留学期間　2022 年 4 月～2023 年 2 月
受 入 先　音楽研究科博士前期課程　音楽学領域

愛知県立芸術大学に留学してよかったことは？

チューターと相談するのはすごく役に立った。毎週勉強や生活のことを話し合って、どんどん日本語で喋ることができた。そして、レポートなどの書いたものを直してもらって、自分は文章を書けるようになった。
いろんな授業があって、自分興味がある授業を履修することができます。そして、履修した授業はほぼ午後から始まったので、自分には慣れやすいです。
授業がない時でも利用できる空間は多い。もし寮にいないなら、図書館だけではなく、室外で使えるところもあって、勉強や相談する時自分にとって便利です。

寮も素敵で、快適に過ごすことができます。

所属大学と愛知県立芸術大学の授業でちがうところは？

台南芸大で授業を受けるのと一番違うのは授業の時間である。台南芸大の大学院では、基本的に一つの授業につき 3 時間がかかる。ここでの授業は半分の時間、つまり 1 時間半かかる。そのため、興味がある授業がもっと受けられる気がする。授業や音楽学コロキウムが終わったら提出する紙、いわゆるコメントシートを書くのも台湾ではあまり見ないやり方で私にとって新鮮なものである。台湾では授業やシンポジウムなどが終わったら、先生や司会者は直接学生たちに意見を聞くことが多い。人前で話すのが苦手な私にとって、コメントシートを書くのは、日本語の書き方の練習だけではなく、自分の感想をはっきり伝えることができる。そして、コメントシートを書きながら、授業中何が勉強になったかも思い出せる。

今回の交換留学の成果は何ですか？

音楽学部で色々な音楽に関する授業を受けて、西洋音楽やポピュラー音楽や日本音楽について知識を身につけてきた。時々、授業で発表する機会がある。最初、自分の研究しているテーマを日本語で紹介するのは大変そうだと思ったが、少しずつできるようになった。そして、音楽総合研究、音楽研究でクラスメイトが自分の研究テーマを紹介することを聞きながら、音楽学の研究や分析の方法を勉強できた。これは今まで勉強していた民族音楽学のこととは違う。受けた授業は音楽の知識についての勉強だけではなく、実際に楽器の演奏をすることもある。日本に来る前に、台南芸大でワールドミュージックアンサンブルに参加してお箏を弾き始めたが、先生の教え方は日本と違うのかということを知るため、また楽器を触り続けるために、「日本音楽演習」でお箏の演奏を学んだ。担当の野村祐子先生は名古屋で有名な箏曲家なので、一流の箏曲家に習えるのは外国人の私にとって珍しい機会だと思う。

陳乃慈さん

所属大学　国立台南芸術大学（台湾）

留学期間　2022 年 9 月～2023 年 2 月

受 入 先　美術研究科博士前期課程　芸術学領域

※本人が英語で書いた原稿を日本語に意訳した内容を掲載しています。

愛知県立芸術大学に留学してよかったことは？

愛知県立芸術大学で学ぶ機会を得たことは幸運でした。コロナ禍というリスクにもかかわらず、芸術学領域で受け入れてもらえて、とてもうれしかったです。特に、私の指導教官である小西信之先生は、私の 1960 年代日本映画史の研究の方向性を調整し、指導の中で重要な本や映画作品を推薦してくれました。

愛知芸大の支援で一番驚いたのは、留学生をサポートするチューターです。2 名のチューターのおかげで、私は学術論文を読み、日本語で要約を編集することができるようになりました。また、小西先生との面談の前に、私の研究の要約を調整し、議論がスムーズに進むようにしてくれました。日本語が不自由な私にとって、会議に参加する私の不安を大きく軽減してくれました（ゼミ）。また、初期のころに生活知識を教えていただいたことも本当に助かりました。

学科で開催されるフィールドトリップも楽しみました。最も印象的だったのは、本田光子先生が開催した京都でのフィールドトリップです。2 日間の旅で、寺院の狩野派絵画や京都国立博物館の展示、角屋もてなしの文化美術館などを見学しました。これまでは、中国の本で狩野派の絵を見るだけでしたが、この旅行では、実際の大きさや昔の環境で作品を見ることができました。また、本田先生や一緒に参加した他の学生のお世話にも感謝しています。

最後に、寮について、短期滞在の留学生がこんなに快適な部屋が借りられるとは想像もつきません。とても広い部屋で、調理器具、バルコニー、洗濯機も付いていました。そのため、大学では日常生活に気を配りながら、研究に専念することができました。寮の管理人さんには、日本での生活のコツを教えてもらい、本当に感謝しています。また、国際交流室のスタッフには、私の学校生活のほとんどをお世話になり、感謝しています。

所属大学と愛知県立芸術大学の授業でちがうところは？

台南芸術大学では、指導教授との面談の頻度は人それぞれで、私の場合、エッセイの新しい進展があれば、教授との面談を予約することにしています。そのため、私たちの面談頻度は日本より低いです。修士課程の授業では、台湾の学生は教授が設定したテーマについてディスカッションに参加しなければならず、時には共同作業でグループレポートを作成することもありますが、日本の学生はインターネット上で自分の感想を書くのが普通で、また、指導教官と１対１の面談をすることもあります。
台湾では、論文発表のほとんどは他の学生に公開され、論文は出版され、国立中央図書館と学士号を授与した大学の図書館に保存されます。執筆者が閲覧許可を制限していない場合、学生は台湾の国立学位論文デジタル図書館から学位論文全体の検索、ダウンロードができます。一方、日本では、誰かの研究論文を探すことが難しく、論文発表は他人に公開されていません。研究者の著作権を守るためなのか、研究に対する考え方が違うようです。日本のシステムは、学生の研究方法を保護することができると思います。それは、日本人の尊敬の文化から生まれたものではないでしょうか。

今回の交換留学の成果は何ですか？

愛知県立芸術大学での５ヶ月間は、日本語能力を上達する機会になりました。教授や他の学生と日本語か英語で話さなければならず、その結果、外国人との会話に対する恐怖心を克服することができました。また、日本語の電子メールの書き方のルールも学びました。日本語が下手な私を受け入れてくれた皆さん、特に小西先生、ありがとうございました。
また、あいちトリエンナーレ 2022、リヒター展、高本太郎展、李禹煥展、明治村、東京国際映画祭、国立映画アーカイブ、名古屋シネマテーク、名古屋城、岩瀬文庫、名古屋能楽堂、など多くの展覧会や施設を訪れ、台湾ではなかなか見ることができないとても貴重な美術品を見たり、研究資料を集めたりすることができました。
他の学生や先生方とのコミュニケーションを通じ、日本やイタリアの文化（交換留学生から）も学びましたが、異文化の美しい側面を学び、台湾の文化を共有することは興味深く、私の人生の中で忘れられない時間です。